読書

ルポ 過労シニア
「高齢労働者」はなぜ激増したのか
若月澪子　著

寿命延びても「自由な時間」ない

朝日新書・870円

わかつき・れいこ　75年生まれ。ジャーナリスト。著書に『副業おじさん』

本書は労働ジャーナリストである著者が、21人の高齢労働者に密着取材して誕生したルポルタージュである。執筆の動機は、シニアには仕事の選択肢が少なく、賃金が低い、そして健康不安を抱えながらなぜ働くのか、という問題意識である。「低年金」が働く理由という一般の理解は、確かにその通りだが、それに対して60歳を過ぎても「子育てが終わらない」という反証事例が重みを持つ。つまり、自立できない次世代の「子」に、劣化した就業の遺産が継承されているということか。

実名、仮名、アルファベット記号で登場する21人は、いずれも60歳以上、最高齢が75歳の男性2人、最も若いのが60歳のアダルトビデオの実名男優である。職種は障害者施設の支援員、在宅事務、ホテルの配膳スタッフ、物流倉庫・廃棄センターでの荷物の仕分け、マンション管理人、シルバー人材センター、公園清掃、学童保育の下校時付き添い、病院清掃、ケア労働、新聞配達、ライバー（ライブ配信）、営業マン嘱託＋スポットワーク、ノートパソコン部品リサイクル等々と広範囲にわたる。

いずれも賃金・収入は少ない。「最低限の報酬でシニアを『活用』する現場」とは、著者の鋭い批判の言葉だ。それは、非正規でずっと働いてきた著者の経験と重なる。「有期雇用の非正規は、連帯も交渉もできずに、低賃金に甘んじる」。そこに労働組合の手は届きにくい。

現役時代の雇用格差は、シニアになって拡大する場合が多い。かつて存在した高齢者の公的就労事業、「失業対策事業」が廃止されて40年以上がたつ。昨年11月、評者が日本高齢者大会の学習講座の一つで講演した時、そこには年金者組合等の労働組合をよりどころとするたたかうシニアの姿があった。

本書は、搾取され続けるシニア労働者、寿命が延びても「自由な時間」をもてない労働者のリアルな状態を描いている。

評者　松丸和夫　中央大学名誉教授

産む自由／産まない自由
「リプロの権利」をひもとく
塚原久美　著

生き辛さ感じたら手に取りたい

集英社新書・990円

つかはら・くみ　61年生まれ。中絶問題研究家。著書に『日本の中絶』ほか

あなたは自分の「産む自由／産まない自由」＝リプロの権利を意識したことがあるだろうか。月経周期の体調を自分に合った方法で整えること。セックスを、誰と、いつ、するかしないか自分が決めること。産むか産まないかを自分で選べること。避妊具（薬）を入手し、使えること。意図しない妊娠をした時に、自分自身が人工妊娠中絶を受けることを決めること…。

月経、セックス、避妊、妊娠、中絶について口にするのは恥ずかしいと思うだろうか。しかし性に関することは誰にとっても日常の一部であり、人生の根幹である。気軽に話せない「タブー感」が、リプロの権利を遠くしている。問題が見えないまま放置されるからだ。

性や生殖に関する正しい情報の入手や、適切な医療に支払い可能な価格でアクセスできることもリプロの権利の一部だが、日本ではそれすら十分でない。学習指導要領は30年近くも義務教育で性交を教えることを制限。法整備や医療サービスは、国際基準から後れを取っている。

入手できる避妊の種類は諸外国の半分以下で価格も高い。意図しない妊娠をした人を責めるかのように、中絶は高額で、G7で唯一配偶者同意が要件だ。個人の身体の自己決定権が尊重されているとは言いがたい。

根深い固定観念、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）、性別役割分担。少子化対策・女性活躍と称した「産んで働け」という圧力は、女性たちを今も生き辛くしている。

リプロの権利を我が事として理解し行使できること。各人の選択肢が広がり、持つ能力を発揮して自分らしく人生を歩めること。その実現を願う著者の長年の研究が本書に綴られている。歴史、制度、当事者の想いを丁寧に繙き、リプロの権利を自分のものとして考えるための道筋を示す。「産む・産まない問題」に心のどこかがざらついたら、初めに手に取りたい。先達の強く温かいエールが聞こえた。

評者　草野洋美　ジョイセフ・シニア・アドボカシー・オフィサー

古墳時代の歴史
松木武彦　著

不安定な政体だったヤマト政権

講談社現代新書・1100円

まつぎ・たけひこ　1961～2024年。岡山大学教授、国立歴史民俗博物館研究部教授を歴任

考古資料から通史を書くという仕事は、戦後から続く考古学者の夢である。古墳時代において著者は見事にそれを実現した。卓越した考古学の知識に加え、最新科学や当時の国際環境から世界の王墓まで視野にいれた記述は圧巻である。

論点は多岐にわたり、刺激的な仮説の提示は数多い。その中でも注目されるのはやはり畿内の大前方後円墳であろう。これまで、各時期の最大前方後円墳が「大王」墓であると考えることが多かったが、著者はそれを退ける。畿内には大前方後円墳が常に複数併存しており、それらは著者がいう門閥氏族の長の墓であり、門閥氏族の中で当時の最高氏族長の地位が移動すると言う。当然「万世一系的」な地位の連続性はそこにはない。著者はそうした政治状況を「まだ大王はいなかった」という刺激的なフレーズで表現する。

門閥氏族自体が安定的なものでなく、門閥氏族から新たな系統の門閥が現れて、そうした新興勢力が政権の主導権を握るという。これまで「河内王朝」と呼ばれていた勢力だ。ただ、ここにおいても百舌鳥（古墳群）と古市（古墳群）という二大門閥があって、競合関係にあったと述べる。こうした新興勢力が登場する背景には、当時の韓半島の緊張関係があり、政権は軍事連合政権であったと説く。新体制は長くは続かない。競合関係が激化する中で有力者が激減して解体し、継体という新たな系統の王が誕生することによって、ここで初めて大王家と呼ぶべき王統が誕生したとする。ヤマト政権は不安定な政体であったことが通して描かれている。

古墳時代後期にかかる記載が少なく、通史としてやや不満が残るし、本書で示された斬新な仮説の背後にあるべきディテールの説明が不足しているところもある。そうした点を別著で解説してほしいところであるのだが、本書が著者の遺作となってしまった。残念でならない。

評者　清家章　岡山大学教授

レーダー

50代俳人を特集　『月刊　俳句界』2月号（文学の森・909円）は「50代俳人～新たな気づき」を特集。「人生100年時代」と言われる現代、その半ばにあたり、「五十にして天命を知る」とされる50代の俳人15人の作品とエッセーを紹介します。〈三匹の鬼踊りゐる春隣　津川絵里子〉〈熊の目は黒目のみ無善無悪　マブソン青眼〉〈知命のわれへ虚空から振るねこじやらし　関悦史〉〈寝がへりを打てり鯨の深みへと　鴇田智哉〉など。40歳までの若手俳人を対象にした北斗賞を発表。井上裕太氏の受賞作「秘仏の扉」より自選30句を掲載しています。特集「うつくしい雪」では、雪の句のセレクションと、作家・佐伯一麦氏のエッセー「雪と暮らす」も。

本欄の価格は税別です

ほんだな

アフリカから来たランナーたち
箱根駅伝のケニア人留学生
泉 秀一 著

ケニア人ランナーが稼ぐ３ルートがあるといいます。①世界の主要大会の賞金②米国チームへの所属③日本チームへの所属です。日本は他のルートとは「根本的に異なる安定性」があり、「その最たる理由が駅伝」です。高校、大学、実業団と、多くの駅伝大会があり、「世界レベルでは戦えない中堅クラスのランナー」でも一定の実力さえあれば、高校から実業団まで「安定した生活を長期」に送れます。箱根で活躍したあるランナーはケニアに豪邸を建てています。（文春新書・1100円）

人間と昆虫のこれからを考える
沼田英治 著

全生物種の半数を占めると言われる昆虫。農業に欠かせず、ハチミツや絹など、人間は大きな恩恵を受ける一方、病気を媒介したり、見た目が不快だったり…。昆虫研究者の著者が、人間と昆虫の関係を考察。傷の治療に役立ち、農業でも活躍するハエ。痛くない注射針を開発するヒントとなった蚊…。すべての昆虫は生態系の一員で、「益虫」「害虫」という概念は固定的なものではないと著者は言います。多様な生物が共生する世界へ問題提起します。（岩波ジュニア新書・880円）

自民・維新の「議員定数削減」合意
維新の「身を切る改革」は本当か？
上脇博之 著

高市早苗政権発足時に自民党と日本維新の会が署名した「連立政権合意書」に盛り込まれた「議員定数削減」。その問題点がそもそもから分かります。国民主権と選挙との関係や、選挙制度の仕組みなどをやさしい言葉で解説。「定数削減」が国民の声を切り捨て、民意からかけ離れた政治を加速させる危険を明らかにします。「政治とカネ」問題を徹底追及してきたスペシャリストによる緊急出版。総選挙で各党の主張を見極めるのに役立ちます。（日本機関誌出版センター・1000円）

「九月」を生きた人びと
朝鮮人虐殺の「百年」
加藤直樹 著

関東大震災時の朝鮮人虐殺について調査、執筆を続けてきた著者が、ここ10年ほどの間に行った講演や雑誌への寄稿などをもとに「あの九月」とその後を生きた人々の「百年」をたどります。目撃証言や軍の公式記録、地域史などから虐殺の実態を浮かび上がらせるとともに、「嫌韓」の起源や虐殺否定論の限界にも言及。「日本社会が『日本人』以外の人びとやその家族の『百年』の記憶を当事者と分かち合い、『私たち』の記憶として共有する」大切さを訴えます。　（ころから・1800円）

https://www.kamogawa.co.jp/　かもがわ出版
〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入　☎075（432）2868　FAX 075（432）2869　（定価は税込表示です）

ブックセンターかもがわ
ネットでの注文が可能になりました
「民主書店本の特送便」をご利用ください。加盟社14社の書籍が翌日・翌々日には、全国どこへでも送料無料（本体税込3,300円以上）で発送されます。
ブックセンターかもがわ　☎075-415-7902 FAX 075-415-7900

気候危機と石炭火力Q&A
エネルギーの選択を問う
気候ネットワーク編著
A5判88頁 定価1650円
深刻な気候危機の最大の要因は石炭火力発電であり、対策の要は再生可能エネルギーへの転換にある。
日本は、世界の潮流に逆行し、石炭火力の推進・原子力回帰政策に固執している。複雑化する火力発電問題をわかりやすく解説し、「私たちにできる10のこと」を示す。
推薦：斎藤幸平　気候危機の現実に向き合い、石炭依存からの脱却を迫る本書は、未来を取り戻すための最良の入門書だ。

いっちゃんはよくこける
牧口一二 監修　三島亜紀子 文　みしまえつこ絵
B5変型上製40頁・オールカラー 定価2200円
まつば杖を使ういっちゃんの姿を通して、インクルーシブ教育の本質を描く。

みらいの大発明
きみがつくるスゴイ世界
くさばよしみ 著
佐藤文隆・柳澤実穂 監修
四六判上製152頁 定価1980円
宇宙エレベーター、透明マント、ワームホールで瞬間移動……最先端の科学技術でわかりやすく伝える科学読本。佐藤文隆先生の監修でホンモノの科学がわかる本。

ルポ　あなたの知らない民生委員
武井 優 著　四六判224頁 定価1980円
制度ができて109年。いちばん身近な福祉の担い手を初の本格ルポ。なり手がなくて困っているが一体どんな仕事か？

13歳からの家族の研究
白井千晶
A5判168頁 定価1980円
古今東西、家族を研究すればいろいろなカタチがある。家族はいろいろあって、いろいろ作れる、家族ってなんだを考える。

畜産を通して、食・環境・命のつながりを学ぶ
13歳から考える畜産
小さな畜産からつくるサステナブルな未来
関根佳恵
A5判160頁 定価1980円
輸入肥料の価格高騰による経営難、人手不足、鳥インフルエンザなどの伝染病……畜産の現場でいま、何が起きているのか。

財政危機のカルテ
漂流する「貧困大国」再生のために
鶴田廣巳（関西大学）編著
川瀬光義（京都府立大学）
横山壽一（金沢大学）
川瀬憲子（静岡大学）
松本　朗（立命館大学）　著
A5判220頁 定価2750円
迫る暮らしの破綻、立て直す処方箋は―。
先進国最悪の債務残高と貧困率。危うい軍拡予算と「全世代型社会保障」。「バケツに穴」の所得・法人税減税。円安放置で「インフレ税」容認か?!
推薦　宮本憲一先生

米国一極支配の終焉と日本の選択
対米従属NO、戦争回避の外交政策へ
孫崎 享 著
四六判256頁 定価2310円
米国一極支配は崩壊したのに日本は従属。高市総理の台湾有事「非常事態宣言」発言で中国は猛反発。元外務省情報局長の事実に基づく検証から、激動する世界に対応する平和外交政策に早く気づいて欲しい。
推薦　植草一秀（政治経済学者）
既刊 Now 17

「リベラル」ではない人のための憲法のお話
堀 新 著（弁護士）
四六判247頁 定価2200円
ニュートラルに・わかりやすく・「道具のように使いこなせる」まで弁護士がかみ砕きました。
高校生が憲法問題の社説を説明できるようになるつもりで書いてみました。（著者）
4つの特長
・思想や立場に関係なく憲法を「道具」として扱う
・改憲の是非でなく改憲で何が起こるかを検討
・他の憲法入門書ではあまり深く触れない条文を重視
・重要な条文は繰り返し自然に頭に入りやすく